

志賀原子力発電所周辺の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力(株)は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。
今回は、令和8年1月～3月の環境放射線監視結果「令和7年度 第4報」及び令和7年度秋季の温排水影響調査結果「令和7年度 第3報」の概要をお知らせします。
環境放射線監視結果については、志賀原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。
温排水影響調査結果については、全体として大きな変化は認められませんでした。

I 環境放射線監視(令和8年1月～3月)

1. 空間放射線

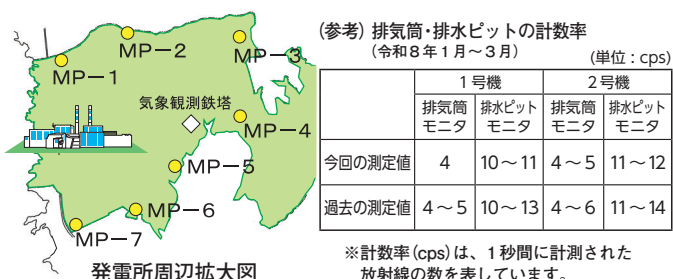
石川県は志賀原子力発電所から30kmの範囲に24局の環境放射線観測局を、北陸電力(株)は発電所敷地境界に7局のモニタリングポストを設置し、1時間あたりの空間放射線量を連続して測定しています。

今回の測定結果は、過去の測定結果と同程度であり、発電所に起因する影響は認められませんでした。最高値が過去3年間の測定結果を超えた観測局もありましたが、いずれも降雨等の自然条件の変化によるものでした。

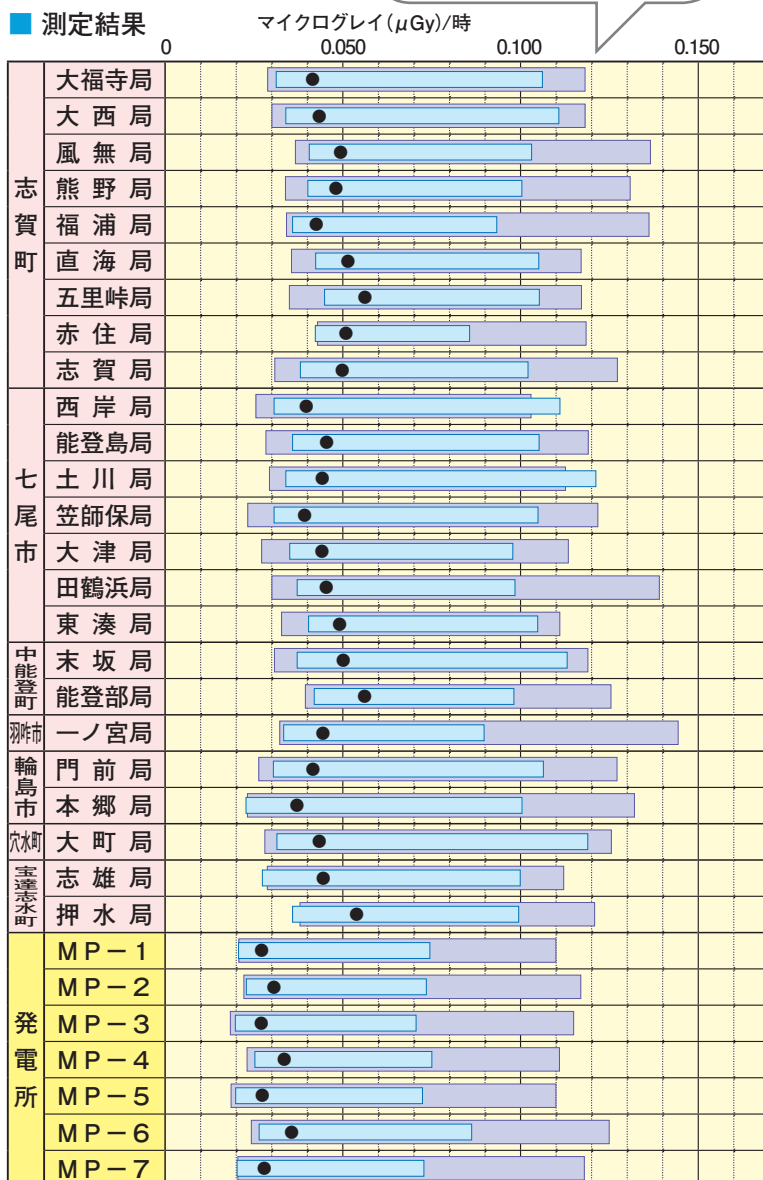
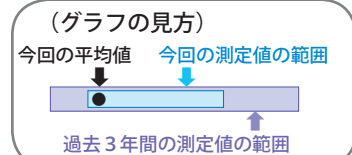
■ 環境放射線観測局(石川県設置)



■ 発電所モニタリングポスト(北陸電力(株)設置)



環境放射線観測局
(能登部局:中能登町(地図下線))
空間放射線、風向、風速などを測定しています。



空間放射線の測定値について

空間放射線の測定値は、宇宙や地面などからの自然放射線によるもので、測定地点近傍の地質や測定器の位置等の違いもありますが、通常、0.020～0.100マイクログレイ(μGy)/時程度です。
日常よく見られる変動としては、降雨による線量率の上昇があり、降雨の場合は0.100～0.200マイクログレイ(μGy)/時程度になることがあります。
空間放射線の測定値の単位には、グレイ(Gy)/時が用いられます。また、小さな値を示すため、通常、100万分の1を示すマイクロ(μ)を付けて表します。
1マイクログレイ(μGy)/時は、100万分の1グレイ(Gy)/時(0.000001グレイ(Gy)/時)を示します。

2. 環境試料中の放射能

農畜産物、海産物、水道水などの試料を採取し、これらに含まれる放射性物質（セシウム137、ストロンチウム90、トリチウムなど）の濃度を測定しましたが、いずれも過去の測定値と同様に低い値でした。

■ 環境試料採取地点（石川県 令和7年度分）



■ 測定結果

（グラフの見方）

検出目標レベル

今回の測定値

過去の測定値の範囲（福島第一原子力発電所事故以前及び同事故5年経過（平成28年度）以降）
※これまでに検出されていない場合は、表示していません。

【セシウム137】

（単位） 0.01 0.1 1 10 100 1000

陸上試料	降下物	ベクレル/平方メートル月	今回検出されず
	大気浮遊じん	ミリベクレル/立方メートル	今回検出されず
	陸水	ミリベクレル/リットル	今回検出されず
	土壌	ベクレル/キログラム乾土	今回検出されず
	指標植物（松葉）	ベクレル/キログラム生	今回検出されず
海洋試料	牛乳	ベクレル/リットル	今回検出されず
	海水	ミリベクレル/リットル	今回検出されず
	海底土	ベクレル/キログラム乾土	今回検出されず
	指標海産物（ホンダワラ）	ベクレル/キログラム生	今回検出されず

※試料採取期間 令和8年1月～3月

【ストロンチウム90】

（単位） 0.01 0.1 1 10 100 1000

陸上試料	土壌	ベクレル/キログラム乾土	今回検出されず
	牛乳	ベクレル/リットル	今回検出されず
	精米	ベクレル/キログラム生	今回検出されず
	大根	ベクレル/キログラム生	今回検出されず
	白菜	ベクレル/キログラム生	今回検出されず
海洋試料	キャベツ	ベクレル/キログラム生	今回検出されず
	海底土	ベクレル/キログラム乾土	今回検出されず
	海産物（チダイ）	ベクレル/キログラム生	今回検出されず

※試料採取期間 令和7年10月～12月

【トリチウム】

（単位） 0.01 0.1 1 10 100 1000

陸上試料	陸水	ベクレル/リットル	今回検出されず
海洋試料	海水	ベクレル/リットル	今回検出されず

※試料採取期間 令和8年1月、3月

※検出されているセシウム137、ストロンチウム90は、志賀原子力発電所に起因するものではなく、過去の核実験等により環境中に放出されたものです。

（参考）志賀原子力発電所の運転状況（令和8年1月～3月）

調査期間中は、1号機、2号機とも運転停止中でした。

環境試料



大根



ホンダワラ

Q & A

環境放射線観測局では測定値が $\mu\text{Gy/h}$ で表示されていますが、シーベルト(Sv)の単位では、どれだけの値になりますか？

環境放射線観測局では、測定した放射線量を放射線から物や人が単位質量あたりに受けるエネルギー量である「グレイ(Gy)」で表示しています。

一方、放射線が人間に当たったときの影響を評価する単位としては、「シーベルト(Sv)」があり、放射線防護の指標となっています。

シーベルト(Sv)の値は、グレイ(Gy)の値に、人体が受けた放射線の種類や、放射線を受けた人体の部位における放射線に対する感受性の重み付けをして算出することになっています。

このようなことから国の原子力災害対策指針では、身の回りの環境からの放射線による外部被ばく量の実効線量の評価は、「空気吸収線量率(Gy/h)を測定して求めること」とし、緊急時に実効線量を求める際には「1グレイ=1シーベルトとして換算できる」とされています。

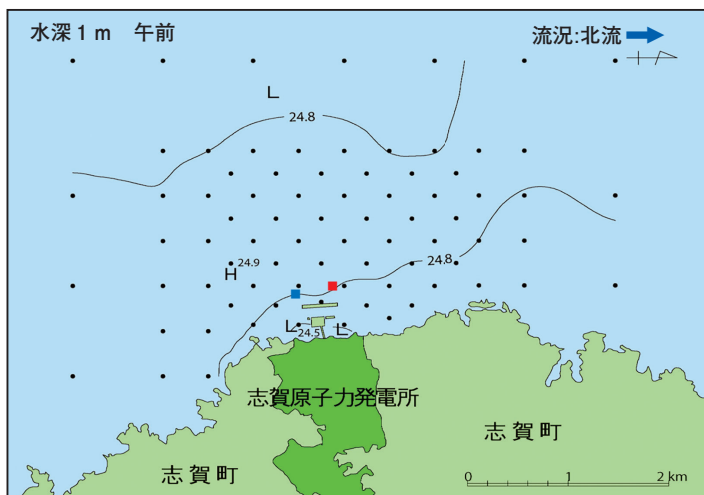


環境放射線観測局表示装置（七尾市西岸局）

Ⅱ 温排水影響調査(令和7年度秋季)

1. 水温調査(調査日:令和7年10月10日)

■ 調査結果(水深1mの水温分布) 単位:℃

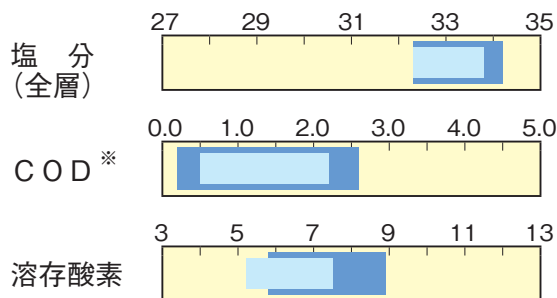


※ ■は1号機の放水口位置、■は2号機の放水口位置、●は水温調査地点を示す。

2. 水質調査(採水日:令和7年10月10日、10月11日)

■ 調査結果(単位:mg/ℓ ただし塩分を除く)

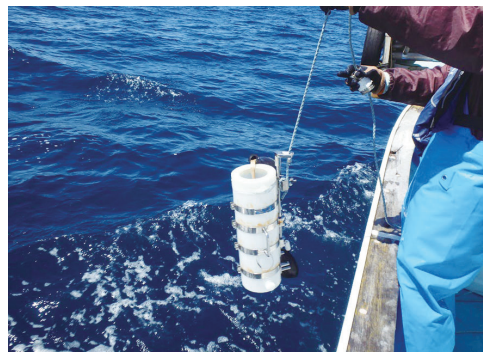
※表層(水深0.5m)、中層(水深5m)、下層(水深20mまたは海底上1m)における最小値及び最大値



※COD: 化学的酸素要求量 (Chemical Oxygen Demand)

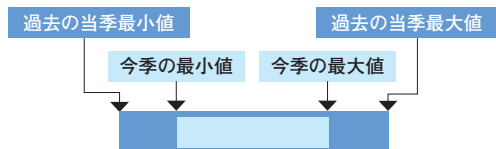
〈温排水の状況〉

調査期間中は、1号機、2号機とも運転停止中であり、温排水は放水されていませんでした。

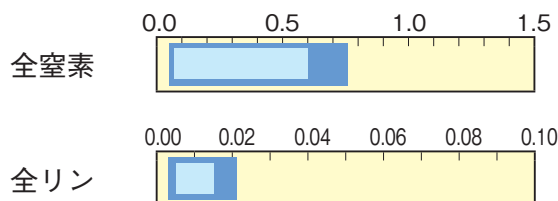


海水採水の状況(バンドーン採水器)

(グラフの見方)



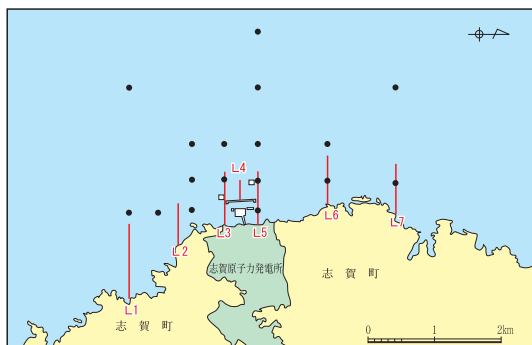
※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度～令和6年度までの調査結果です。



3. 海生生物調査(調査日:令和7年10月7日～10月16日)

海生生物調査では、潮間帯生物、海藻草類、底生生物、卵・稚仔及びプランクトンについて調べています。ここでは、底生生物のサザエの生息調査についてご紹介します。

■ 調査地点



●: 水質調査地点 | : サザエ生息調査測線

■ 調査結果

調査測線	水深(m)	調査面積(㎡)	調査結果(平均個体数/25㎡)	過去の秋季調査結果(平成15～令和6年度(平均個体数/25㎡))
L 1	3～20	125	1.4	1.2～9.2
L 2	3～20	125	6.0	4.0～19.6
L 3	3～20	125	11.0	2.8～14.6
L 4	15～20	50	0.5	0.0～3.0
L 5	3～20	125	12.4	3.4～30.2
L 6	3～20	125	13.2	1.4～46.8
L 7	3～20	125	15.2	11.4～24.0

〈温排水影響調査結果の概要〉

水温調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、平均水温は高めの値であり、平均塩分は過去の範囲でした。同一水深層での温度差は0.2～1.8℃、塩分差は0.1～0.9でした。鉛直的には、上下層間での温度差は2.3～2.4℃、塩分差は0.9～1.0でした。

水質・底質調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、水質はいずれの項目もほぼ同程度でした。底質は全リンがやや低いほかは、いずれの項目も同程度でした。

海生生物調査: これまでの秋季調査結果と比較すると、いずれの項目も出現状況はほぼ同程度でした。

以上の内容は、石川県原子力安全対策室ホームページ(<https://atom.pref.ishikawa.lg.jp/>)でもご覧いただくことができます。